

報道関係各位

2026年3月9日
株式会社 JERA
株式会社読売巨人軍
株式会社ヤクルト球団
株式会社横浜 DeNA ベイスターズ
株式会社中日ドラゴンズ
株式会社阪神タイガース
株式会社広島東洋カープ

JERA × セントラル・リーグ

持続可能でより良い社会の実現に向けて、選手もファンも監督もみんなですすめる
「灯セ、みんなで。」プロジェクトを始動

株式会社 JERA（本社：東京都中央区、代表取締役会長 Global CEO：可児 行夫および代表取締役社長 CEO 兼 COO：奥田 久栄、以下「JERA」）とセントラル・リーグ 6 球団「読売ジャイアンツ」「東京ヤクルトスワローズ」「横浜 DeNA ベイスターズ」「中日ドラゴンズ」「阪神タイガース」「広島東洋カープ」（以下、「セ・リーグ 6 球団」）はこのたび、持続可能でより良い社会の実現に向けて、選手もファンも監督もみんなですすめる、JERA × セ・リーグ「灯セ、みんなで。」プロジェクトを始動することといたしました。



2020年シーズンに JERA がセ・リーグ公式戦のタイトルパートナーとして特別協賛を開始して以来、JERA とセ・リーグは共に相互の理解と関係性を深め、2022年シーズンからはシティクリーン活動や次世代支援プロジェクトなど、多様な社会貢献活動にも取り組んでまいりました。今後さらに、お互いの価値を最大限生かし、ファンの皆さまと一緒に持続的でより良い社会を創り上げることを目指して、新たな共創パートナーシップを構築します。

本プロジェクトは、JERA とセ・リーグ 6 球団で、ファンの皆さまとともに、「持続可能な明日への力強い希望の光を灯していきたい」という想いを込めて「灯セ、みんなで。」プロジェクトと名付け、発足いたしました。本プロジェクトでは、セ・リーグ各球団で進めている既存の取り組みに限らず、年間来場者数のべ1,472 万人のファン（2025 年シーズン：セ・リーグ発表数）の皆さまとともに、持続可能でより良い社会の実現に向けた取り組みを進めていきたいと考えております。例えば、球場設備の CO₂ 排出量削減や、ファンの皆さまが球場内外で取り組むことができる施策を検討するなど、セ・リーグ全体としての取り組みも計画しております。



【プロジェクトへの想い】

灯セ、みんなで。

JERA x セ・リーグ

クリーンエネルギーで、熱戦をつくろう。

野球を愛するすべての人へ。

あなたの野球愛は、伝わっていく。家族や恋人や仲間の輪へ。親から子へ、世代を超えて。
だからこそ私たちは、ずっと野球をたのしめる環境を未来へ手渡していきたい。

選手もファンも監督もみんなですめる、

JERAとセ・リーグの「灯セ、みんなで。」プロジェクト。

日本最大の発電会社として世界のエネルギー転換をすすめる「JERA」と、ファンや地域に深く根ざした「セントラル・リーグ」6球団が手を組み、持続的でより良い社会をつくっていく。クリーンエネルギーゲームの実施をはじめ、様々なアクションを通じて環境・エネルギー問題にともに向き合い、一人ひとりの行動につなげていくことを目指します。野球、そして地球を次の世代に残し、安心して暮らし続けられるための希望の光をみんなで灯していく。

灯セ、みんなで。

株式会社JERA 株式会社読売巨人軍 株式会社ヤクルト球団 株式会社横浜DeNAベイスターズ
株式会社中日ドラゴンズ 株式会社阪神タイガース 株式会社広島東洋カープ

野球を愛そう。地球を愛そう。

灯セ、
みんなで。

【プロジェクトのロードマップ・ファンの皆さまと実施したいこと】

本プロジェクトでは、持続可能でより良い社会の実現に向けて、3年間という期間を通じてファンの皆さまが「気づく」ことから「行動する」ことへの変化を促し、共に歩みを進めるべく、「プロジェクトのロードマップ」を策定いたしました。

プロジェクトのロードマップ／実施したいこと

	STEP①	STEP②	STEP③	STEP④
目的/役割	気づく・知る	関心を持つ	意識が変わる	日常行動が変わる
目指す状態	環境・エネルギー問題の存在を再認識	環境・エネルギー問題の自分ゴト化	自分にもできることはないかと考える	できることから始めてみる
2026年	「灯セ、みんなで」プロジェクトの立ち上げ ・プロジェクトサイトのローンチ（3/9）環境・エネルギー問題の共有 ・JERA脱炭素ナイター（仮称）の実施とファン参加型の取り組みを始動 ・セントラル・リーグのScope 1,2,3排出量可視化および削減策検討・実行の開始			
2027年	「灯セ、みんなで」プロジェクトの進化と拡大 ・JERAと各球団によるScope 1,2,3排出量削減策の実行 ・一人ひとりの意識が変わるきっかけとなる参加型アクション施策の実施（アプリの導入も視野） ・現役選手アンバサダーを任命（選手も巻き込んだ活動に）			
2028年	「灯セ、みんなで」プロジェクトの効果・成果の最大化 ・JERAと各球団によるScope 1,2,3排出量削減策の更なる深化 ・一人ひとりの行動変容を促す参加型アクションの浸透と参加者数の拡大			

**灯セ、
みんなで。**

3年間で「気づき」から「行動」へ導く、共創型コミュニケーション

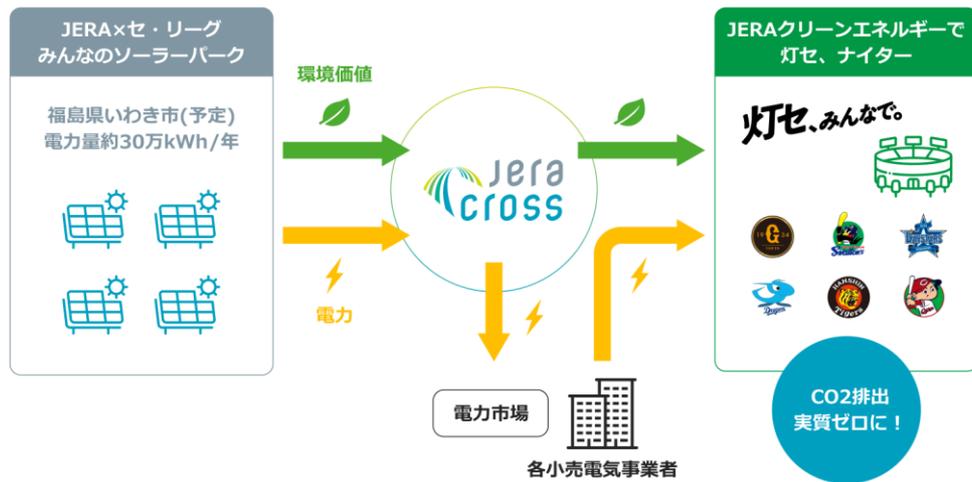
1年目は、環境・エネルギー問題に気づき、知っていただくことを目標とし、一部冠試合のクリーンエネルギー化、プロジェクト特設サイトローンチ、SNSでの参加型施策など、球場内外でファンの皆さまとともに取り組んでまいります。2年目、3年目では、ファンの皆さまの環境への意識が高まり、最終的にはファンの皆さまが日常で行動に移していただけるようにプロジェクトの取り組みや発信の仕方を進化させてまいります。

【具体的施策：「JERA クリーンエネルギーで灯セ、ナイター」のご紹介】

今回のプロジェクトの象徴的なアクションとして、セ・リーグの各球団およびファンの皆さまと「JERA クリーンエネルギーで灯セ、ナイター」を開催いたします。今シーズン、JERAが協賛する冠試合などの一部で、JERAのグループ会社であるJERA Crossが本プロジェクト向けの太陽光発電所「JERA×セ・リーグみんなのソーラーパーク」を用意し、この発電所から生み出される環境価値をバーチャルPPAという仕組みを活用して、各球団に取得いただきます。バーチャルPPAで取得した環境価値を使用して、試合で必要となる電力のCO2排出量を実質的にゼロにする仕組みです。1年目は各球団1試合程度の実施からスタートし、2年目以降は各球団の皆さまと相話をしながら、開催試合数の増加を目指してまいります。

※JERA クリーンエネルギーで灯セ、ナイターの取り組みについてはこちらをご覧ください：

<https://jera-tomose.jp/tomose-nighter/>



ファンの方々をはじめ、本プロジェクトの活動により多くの皆さまにご参加いただけるよう、3月9日(月)13時から「灯セ みんなで プロジェクト」の公式ホームページを公開致します。また、3月27日に公式Xアカウントを開設予定です。プロジェクトの内容や、各球団の取り組みを発信していく予定です。また、Xでは4月以降、豪華景品が当たるファン参加型キャンペーンを実施予定です。

・公式ホームページ : <https://jera-tomose.jp/>

【プロジェクトを共に盛り上げるプロジェクトアンバサダーとナビゲーターのご紹介】

プロジェクトアンバサダーとして「QuizKnock (クイズノック)」さん、プロジェクトナビゲーターとして望月理恵さんにご協力いただき、年間を通じて分かりやすくプロジェクトの情報をお届けしてまいります。是非ご注目いただければ幸いです。

■QuizKnock (クイズノック)



QuizKnock (クイズノック) は、クイズ王・伊沢拓司が中心となって運営する、エンタメと知を

融合させたメディア。「楽しいから始まる学び」をコンセプトに、何かを「知る」きっかけとなるような記事や動画を毎日発信中。

JERA は、QuizKnock を運営する株式会社 baton (所在地: 東京都品川区、代表取締役 衣川洋佑) と共に、中高生を主対象としたエネルギー情報発信プロジェクト「ゼロエミッションスクール」を展開。特設サイトで学べる動画・クイズや、学校関係者との対面型ワークショップなど、次世代教育の取り組みを多角的に展開している。

■望月 理恵



セント・フォース所属

兵庫県生まれ。1994年、「世界ふしぎ発見!」(TBS)のミステリーハンターとして活動開始。2004年から2022年まで「ズームイン!!サタデー」の司会としても活躍。2021年6月にはセント・フォース取締役に就任。テレビやラジオをはじめとして幅広く活躍中。現在は「THE TIME,」(TBS)「DayDay.」(日本テレビ)「望月理恵のエンタメ★カフェ」(ラジオ日本)などにレギュラー出演中。また、糖質オフに特化したブランド「NOILLY」(<https://www.noilly.jp>)のプロデュースも行っている。

【会社情報】

株式会社 JERA

東京電力株式会社(当時)と中部電力株式会社により2015年4月に設立された、グローバルな燃料・発電会社で、国内において約3割の電力供給を担う日本最大の発電事業者。2020年10月に、2050年に国内外の事業からのCO₂排出量ゼロを目指し、「JERAゼロエミッション2050」を公表。再生可能エネルギーの拡大に加え、発電時にCO₂を排出しない「ゼロエミッション火力」の開発に努めている。

以上